

製造業

- ◇パン…年々組合員が減少傾向にある。食の安全から極細かいクレーンに対しても指摘があり、神経を使うところである。
- ◇味噌…消費税増税の影響が顕在化してきている。売上減、原材料費高騰もあり、収益面が悪化の傾向にある組合員もあり、業況が厳しくなっている。
- ◇酒…4月の課税移出数量は前年比80.7%と大幅減。消費税増税を控えた仮需要の反動が要因と考えられる。焼酎も4月課税移出数量は前年比65.6%と大きな落ち込みとなった。しかし、清酒輸出は引き続き順調である。平成25年の全国輸出金額は105億円と初めて100億円を突破し、輸出数量も過去2年間で20%も伸びている。この中で、国際空港免税エリアにおいて今年度も試飲販売を継続実施。さらに、全日空ラウンジにおいては「國酒PR」として小冊子・デジタルサイネージを設置し、買取による試飲サービスも実施。
- ◇納豆…国産大豆の暴騰とその手当に苦心している(昨年の台風などの影響)。円安による資材の価格転嫁が進み、資材高が定着した。原料、資材高により廃棄ロス金額も上昇。売上動向は、理由は不明であるが前年比で少し落ちている。
- ◇菓子…5月上旬のGWで売上はやや持ち直してきた感じであったが、中旬以降減少してきており、売上・収益ともに伸び悩み、前年同月比でやや減少。また、GW期間中の観光入込客数でも、震災前の時より増加している笠間・ひたちなか・大洗の地区と、まだ風評被害の影響も残り、震災前の時に戻っていない県北地区との格差が広がってきているような状況である。
- ◇繊維製品(袋物)…連休明けの反動で売上もダウン。そこへきて雇用人員も減少したのでダブルパンチ。仕事はそこそこあるが、人員が不足している様子。
- ◇木材…消費税増税前の駆け込み需要が過ぎ、プレカット工場の稼働率も低下。製品の荷動きも落ち着き、先行き需要減が予想されていることから、製品価格は弱含み傾向。手当も慎重になっている。
- ◇プレカット…消費税の反動があるかと思っていたが、目標の80%くらい加工が出来た。6月前半も加工予定が入っている。
- ◇段ボール…駆け込み需要の反動が若干見られた。
- ◇焼物…春の陶炎祭へは、過去最高の入出となる488,000人の方が来場された。年々盛況となり主催者としては大変ありがたいことだが、交通渋滞

対策が頭の痛いところ。しかし、今年以上に来年もしっかりと対策をしていきたい。

- ◇鍍金…5月は昨年比低調であった。消費税増税の影響が考えられる。今まで好調だった建設資材関連も4、5月は低調。その他自動車部品も含めた他の産業も思ったほど量が出ていない。鍍金加工単価、原材料は前年同程度である。電気代、ガソリン・灯油など石油製品等の高止まりが資金繰り等に影響を及ぼしている。業界としては、増税の影響が短期間で済むことを願っている。
- ◇電化機器…当月生産高は、対前年同月比で△201百万円(△23.1%)の670百万円。前月と比較しても△85百万円(△11.2%)となる生産高であり、自動車関連、家電関連共に大きく減産の状況。前年比マイナスの状況は、当分続くものと思われる。
- ◇工業団地(農機部品)…組合員の売上状況は、対前年同月比で組合員7社中1社が増加、6社が減少(全体増減率80%)。対前年比売上高は、80%と大幅な低下となった。発注先では、平成26年度は年間を通して増産基調としており、消費税増税後の一過性的なものと考えたい。

非製造業

- ◇セメント卸…袋セメントの出荷袋数は前年同月比約9%の減少。新規の建設工事が4月以降減少。
- ◇水産卸…精算所取扱高は、前年同月に比べ9.5%の増。仕入単価上昇により販売価格も値上がり傾向、量販店の売上高が伸びてきている。
- ◇食品卸売…2月の大雪、3、4月の雨不足により、野菜に関しては昨年に比べ数量減、単価高にて推移した。果実に関しては、大雪の影響でブドウ等のハウス栽培の果実が数量減となったが、全体では数量増、単価高で推移した。今夏は冷夏が予想されているが、冷夏により野菜・果実ともに単価高となればますます販売に苦慮することとなるため、心配な状況が続く。
- ◇県北地区共同店舗…今年のGWは日並びに恵まれなかったせいか、コミュニティ重視の参加型イベントが功を奏して喜色満面の結果となった。
- ◇県央地区共同店舗…売上は食料品、飲食を中心に戻しつつあるが、衣料、雑貨系は厳しい状態が続く。
- ◇県南地区共同店舗…4月の減少より若干回復したが、前年比は20%以上マイナスが続いており、大変厳しい状況が続いている。
- ◇家電…売上高は減少しているが、反面、業績を伸ばしている店もある。お客様のニーズを絞った地

道な活動が成果として上がっているようだ。具体的事例としては、家電販売に限らず、ハウスクリーニング（換気扇・水回りなど）などからリフォームなどを案件として取得、そして家電販売へ、とのこと。

- ◇**農機具**…米の卸価格が下がっており、産地や卸の在庫も増えている。TPPの交渉も不透明で、米農家の機械の購買意欲が無くなっている。
- ◇**中古自動車**…5月中旬より出品台数が大幅に減少し出した。消費税増税前の駆け込み需要の反動が出てきている。出品車両の内訳もディーラーからの出品ウエイトが高くなってきており、一般小売店が厳しくなっている。
- ◇**石油**…ガソリンの販売価格は前年同月比で14円上昇しているが、需要減の影響により依然として安値販売競争が続いているため、仕入価格の上昇分も完全転嫁出来ず厳しい経営環境となっている。
- ◇**ホテル旅館**…観光地山側は、日帰り客は増加、宿泊客も震災前近くまで戻ってきているとのこと。海側は、オフシーズンということもあるが、魚介類料理目当ての日帰り客ですら戻ってこないとのこと、明暗が分かれている。消費税増税分を価格に転嫁できないとの声も聞かれる。
- ◇**自動車整備**…組合員事業場の車両在庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の前年同月比は普通車92.5%、軽自動車94.0%と微減である。
- ◇**総合建設**…景況は先月よりさらに悪化。国家規模の工事や東京都などではまさに好景気だろうが、地域で仕事がほとんどない状況。競争入札はさらに価格競争が激しくなり、一般競争入札は半額受注も出ている。これは利益が出るからではなく、支払人件費だけでも確保しようとするための競争入札と考えられる。この状態は、各社に仕事がいきわたるまで続くと予想する。地域によっては工事金額の最低価格制限が無いため、このようなこ

とになる。県発注工事は、最低制限価格の変動係数（最低制限価格±1%）の金額当てクイズと化し、もはや適正な価格、正常な積算価格による入札ではなくなっている。

- ◇**管工事**…売上は、前年同月比約30%減。
- ◇**県北地区運輸**…顧客動向は横這いなるも、当組合全体の受注額についても昨年度と比較して減少している。また、燃料費については依然値上がり傾向となっており、収益状況が厳しい。今後とも収益に直接つながる動向なので、注意を払ってきたい。
- ◇**県央地区運輸**…前半はギフト配達、半ばからは市場関係（メロン）の仕事が活発になった。気温も高い日が多くなり、飲料水関係も良好。住宅メーカー・建材の仕事も少しずつ増えてきているが、運賃は横這い、軽油は値上がりで収益は見込めない。

H26.5月の業界天気図

業種	指数	売上		収益状況	
		前年同月比		前年同月比	
食料品業		▲	83.3		▲ 66.7
その他業		▲	30.0		▲ 45.0
卸売業			50.0		▲ 25.0
小売業 (商店街を含む)		▲	27.3		▲ 63.6
サービス業		▲	50.0		▲ 50.0
建設業		▲	60.0		▲ 60.0
運輸業		▲	50.0		▲ 100.0
全体		▲	34.0		▲ 54.0

【天気図の見方】 県内情報連絡員から毎月いただいている情報連絡票の景況項目について、「増加」（又は、「好転」）業種割合から「減少」（又は「悪化」）業種割合を差し引いた値（D.I値）をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満～▲10	▲10超～▲30未満	▲30以上

※表の中の数値はD.I値





アクモス 株式会社

<http://www.acmos.co.jp>

— 人と技術と感動を —

プロフェッショナルサービスプロバイダーのアクモスグループです

〈茨城本部〉 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713-7
TEL: 029-270-5555 FAX: 029-270-5531

JASDAQ <small>認証コード 6888</small>	本社 東京都千代田区神田小川町三丁目26-8 03-5217-3121	つくばオフィス 茨城県土浦市卸町1-1-1 関鉄つくばビル2F 029-834-3391
--	--	---